



TOHOKU
UNIVERSITY

Volunteer Seminar Journal Vol.4 2013 Spring

学生がいる 復興の現場



001 ボランティアツアーレポート
陸前高田ボランティアツアー / 日帰りボランティアツアー

003 特集 / 大学生活とボランティア
ボランティア座談会

005 ボランティア支援室とは
学生アシスタントの仕事 / 学生アシスタント募集のお知らせ

007 教員からのメッセージ
東北大学大学院 経済学研究科 准教授 西出 優子



ボランティアツアーレポート

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室（以下、支援室）では、本学の学生を対象として、被災地へのツアー企画を行っています。ツアーの情報は支援室公式 Web サイトのほか、学内の掲示板や東北大学生協の食堂などでお知らせしていますので、是非一度目を通してみてください。

陸前高田ボランティアツアー

支援室では、これまでに神戸大学共催のツアーを計3回実施しています。

神戸大学は、震災直後に「東北ボランティアバスプロジェクト」を立ち上げ、学生や教職員のボランティアを継続的に大槌町や陸前高田市など岩手県沿岸部に派遣して、復興支援活動を行っています。

支援室は東北ボランティアバスプロジェクトに協力し、東北大学生・教職員を同行させる形でボランティアツアーを行ってきました。

このツアーによって、東北大生が現地の方々とのコミュニケーションを通じて被災地・被災者の現状を知ると同時に、参加者同士の交流を通じてボランティアによる復興支援について考える機会を提供しています。

ツアーの内容（一例）

「足湯・手芸カフェ」を通じた被災者との交流
 漁業支援（現地で行われる牡蠣の養殖など）

これまでの開催日程

2012年09月08日 - 09日
 2012年11月23日 - 25日
 2013年02月22日 - 24日

*神戸大学東北ボランティアバスの活動については、こちらのサイトで知ることができます。

神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト

<http://ameblo.jp/ku-tono/>

参加された学生の方の活動報告や、被災地に暮らす方の声などがブログ形式でアップロードされています。

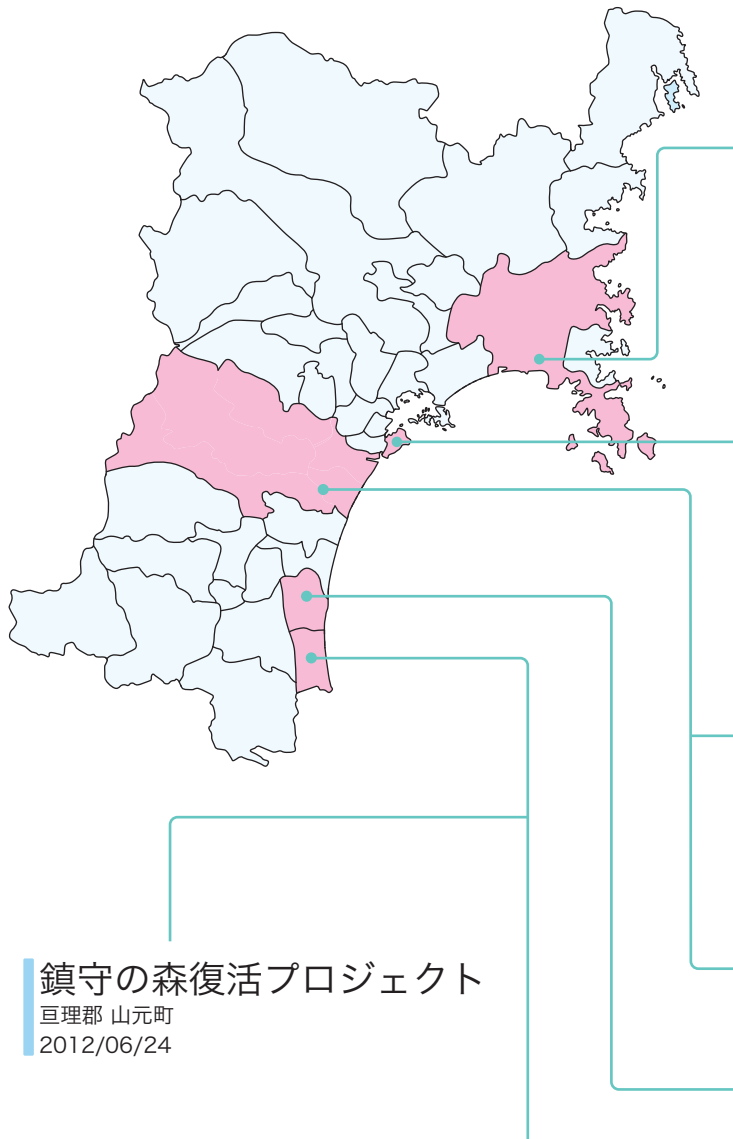
ボランティアに関心のある方は必見です。



日帰りボランティアツアー

支援室では、復興支援を行うボランティア団体の協力を得て、宮城県内を中心に不定期の日帰りツアーを行っています。

このようなツアーは、東北大学生が東日本大震災への認識を深めると共にボランティア活動への関心を持つきっかけづくりを目的として企画・運営されており、1～2ヶ月に1回程度実施しています。



石巻 スタディーツアー

石巻市
2012/05/04
大震災により大きな被害を受けた石巻市を訪れ、復興途上の現状を自分の目で確かめると共に、復興のあるべき姿について考える。

沿岸部がれき処理ボランティアツアー

宮城郡七ヶ浜町
2012/05/05



東北コットン プロジェクト

仙台市 若林区 荒浜
2012/05/19
津波で被害を受けた農場において綿花栽培を支援するプロジェクトに参加し、震災復興と地域おこしについて考える。

農地復旧ボランティア

仙台市 若林区
2012/09/13 2013/2/28

鎮守の森復活プロジェクト

亶理郡 山元町
2012/06/24



山元町いちご農園 ボランティアツアー

亶理郡 山元町
2012/08/11 2012/12/02
山元町の被災した農園を訪れ、農作業の手伝いを行うとともに、被災地における生活立て直しに向けた取り組みについて知る。



被災地 スタディーツアー

亶理郡 亶理町
2012/08/04
亶理町を訪れ、大震災による被害と復興の現状を知ると共に、現地 NPO の活動を体験し、ボランティアの意義を実感する

「ボランティア」座談会

■ 大学生活とボランティア



法学研究科准教授 米村滋人

法学部二年 二木洸行

農学部一年 岸田紗季

農学部一年 今野芙実

理学部四年 後藤和紀

震 災復興ボランティア活動って実際どんなものだろう…？ この「ボランティア座談会」では、4人のボランティアに携わる東北大学生にお集まりいただき、日々の活動の中でどんなことを考え、感じているか聞いてみました。司会はボランティア支援室の運営に携わり、自身もボランティアの一員として復興支援を考える、法学研究科の米村滋人准教授です。

ボランティアを始めたきっかけ

米村：最初に、ボランティアを始めたきっかけと、現在の活動内容についてお聞きします。

二木：大学でReRootsのボランティア募集のピラを見て活動に参加し、そのままメンバーになりました。ReRootsは「復旧から復興、そして地域おこしへ」というコンセプトを掲げ、将来的には農業や景観といった地域の魅力を使って、後継者不足などの課題を解決しようと思っています。今は復旧ボランティアを続けながら、昨年末に作った地域おこしの政策のたたき台に対して、農家さんや地域に関する方々から頂いた意見を基に、どんな取り組みができるか検討中です。

今野：私は福島県の南相馬市出身で、震災があってから、いろんな人に助けられているというのを実感して、大学に入ったらボランティアをやりたいと思っていました。入学してHARUという団体を知って、そこに所属して震災ボランティアを始めました。現在は山元町の農家のお手伝いをするいちごプロジェクトに関わっています。

後藤：震災直後は被災地で自分が役に立てるのかという不安もあり、ボランティア活動に参加する決心をつけられずにいました。震災から1年という区切りがあり、ボランティアを始めたときにHARUに出会って、入ってみようかと。現在は教育支援活動などを行っています。

米村：ボランティアをはじめるとあって、きっかけはありましたか？

後藤：大学で震災について考えるセミナーがあって、その授業の先生と学生とで、仙台空港や閑上地区を車で回る機会がありました。その時に「何かしたい」という思いを強く感じたのが大きかったです。

岸田：東北大学に行くからには何かしたいと思っていました。キャンパスにある掲示板でReRootsの農業支援を知って、農業にもともと興味があったので、活動に参加してみました。初めて参加したとき、沿岸部の被災した農地の状況や、もう一度農業を再開するまでの大変さを感じたことが今の活動のきっかけです。



一つひとつ役立つことを

米村：ボランティアをしていて、自分にとって良かったこと、被災地の方にとって良かったと思うことなどで、何か印象に残っていることはありますか？

岸田：畑が復旧して、そこに野菜が育っているのを見るのはとても嬉しいことだし、農家の方にとっても、良かったことなのではないかと思います。

二木：自分たちが作業して復旧した農地で、作物ができてのを見ると感動しますね。農家がそこで作った野菜がまた美味しい(笑)

後藤：違う世界を知ることができるというのは利点かな、とっていて。今は仮設住宅で自主学習の支援をしているんですが、そこで子供たちと話したり、地域の人と触れ合えるというのは、普段学生として生活しているだけではなかなかできないことです。これは震災ボランティアかという、少し外れているかもしれませんが。

米村：震災復興活動といっても色々な活動があって、たとえば直接に震

災と関わりがないとしても、広い視点で見ると東北の復興、再生に活きているというような活動もあると思います。

後藤：例えば子どもの遊び相手になってあげるという活動もあって、これはすぐに震災ボランティアに結びつけられるものではないですが、被災地にとって一つひとつ役に立てることをやっていければという思いで取り組んでいます。

今野：相手がいるボランティアというのは、相手の方にも何らかの形で「良かったな」と思っていただけなものかな、と思います。

米村：それは素晴らしいことですね。

今野：あと、所属しているボランティア団体では、いろんな学年の人がいて、それでも堅苦しい雰囲気ではなくてボランティアができるというのが良いところだと思います。

後藤：学年が違ってても対等に意見を出し合えて、活動を進めていくというのはサークルともまた違ったものがあって驚きでした。

何かしたい、という思い

米村：「ボランティアは自分にはできないんじゃないか?」「足手まといになるんじゃないか?」と考えてしまって参加できないという人が多いようですが、皆さんはどのように感じますか?

後藤：自分はそのようなタイプの学生でしたが、「知らない」からこそ「自分は何もできない」と思い違いをしていたんだと思います。沿岸部とか、被災地に足を運ぶ機会があれば、考えも変わると思います。

岸田：ボランティアツアーで会った神戸大学の方は、勉強が忙しくなる前に何かしたい、という思いがあって参加したという人が結構いて。そういう思いは、皆持っているものなのではないかと思えます。

二木：復旧ボランティア以外の興味や関心からメンバーになるのもイイと思います。農業に興味があれば野菜作りとか。

米村：ボランティア活動をやってみて、自分は変わったと思うことはありますか?

岸田：自分がボランティアをやりたいと活動を始めたんですが、ボランティアを受け入れる側の人が「こうなりたい」という思いを持っているなら、それに応えて、助けるような活動をできるようにになりたいと思うようになりました。

後藤：変わったところはあるとは思いますが、ものの見方が変わったり、臆することなく活動に参加していけたり。

今野：積極性が身についたかなと思います。これを生かしてボランティア活動を行っていければと思います。

自由な活躍の場

米村：他の方に質問があるという人はいますか?

後藤：他にサークルに入っている人がいるか聞きたいです。

二木：今はボランティアだけです。

後藤：僕自身は、サークルではないですが、日本宇宙少年団という小中学生向けに科学教室を行うボランティア団体にも所属しています。

岸田：サークルは最近あまり行っていませんが、ボランティアツアーや団体の活動を通じて人間関係が広がったりするので。

今野：大学祭のスタッフをしていて、準備期間などはあまりボランティアに参加できなかったのですが、「できる時にできることをやる」ということで今も活動を続けられています。

米村：他の学生生活とボランティアの兼ね合いについてはどうですか。例えば勉強とか。

一同：勉強をしないのは、ボランティアとは関係ないでしょう（笑）

二木：時間の使い方の問題だと思いますよ。

後藤：例えばボランティアが勉強の気分転換でも、いいと思います。ボランティアは「意識が高い」人限定だ、と考えなくていいと思うんです。新聞作りに興味のある人が、ボランティア団体の広報に入って、そこで自由に新聞をつくったっていい。

米村：ボランティア団体はやっぱり自由ですよ。役割を果たすために柔軟に動いていきますから。

岸田：今抱えている問題に、どこから取り組んでいけるかを考えられる自由さがあると思います。

米村：元々やりたいことがある人が活躍の場を広げられるのはもちろん、そうでない人も刺激を受けて、自由な発想ができるようになっていくでしょうね。

ボランティアの“後輩”たちへ

米村：それでは最後にお聞きますが、ボランティアのアピールポイントってなんですか?

後藤：一人ひとり携われる領域がとても大きいということ

ですね。自分がやる・自分で決めることがとても多いし、自分の考えが団体としての行動につながっていく。だからこそ責任を持ってやらなければいけません、そうやって関わっていけるのが楽しいです。

二木：復旧から復興への過渡期なのでガレキ撤去などの復旧ボランティアだけでなく、地域おこしにも取り組み、面白みもあります。

今野：さっきも言いましたが、いろんな人と関われるのがボランティアの良いところだと思いますし、大切にしたいと思えるような人とのつながりがあります。

岸田：いろんな年代や、職業の人と関わって、いろんな人の生き方を学べるのが良いところだと思います。

米村：本日はありがとうございました。



ボランティア支援室とは

ボランティア支援室（正式名称：東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室）は、東日本大震災により被害を受けた地域の復興支援のために、ボランティア活動を行う学生を支援するという目的のもとに設置された組織です。

主な業務は以下の3つです。

① ボランティア活動の紹介や相談の受付 ② ボランティアツアーの企画 ③ 物品の支援
ボランティア支援室には、東北大学生および大学院生からなる「学生アシスタント」が在籍しており、①と②の活動を支援しています。

学生アシスタントの仕事

イベントの企画運営

ボランティア支援室では、学生の皆さんに震災復興ボランティア活動について知ってもらい、参加するきっかけとなるようなイベントを企画・運営しています。



これらのイベントは、企画段階から当日の準備・実施・後片付けまで、すべて学生アシスタントが主体となってつくりあげています。

① スタートアップフェア

ボランティア団体のスタッフと、1対1で直接話ができる場です。ボランティア未経験者大歓迎！

ぜひボランティア活動に関する疑問をぶつけてみてください。きっと、自分に合ったボランティアのスタイルが見つかるはずです。

② ボランティアツアー

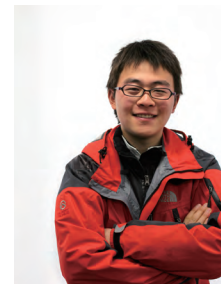
被災地の現状を知る「スタディツアー」から、泊りがけで県外のボランティアに参加するツアーまで多種多様。

ボランティア未経験者からベテランまで、学部学年問わず色々な人が集まります！

このツアーを機にボランティアを始める人も沢山います。

アシスタントの声

新 入生の皆さん、はじめまして。ボランティア支援室スタッフの陳偉熙です。私たちボランティア支援室は、学生が進んでボランティアに従事できるためのさまざまなサポートを行っています。



学生にボランティア活動への関心を 工学部2年 陳偉熙 持ってもらうために、支援室はボランティアツアーの企画を行っています。自分も昨年、亶理町へのスタディツアーの企画をしました。やることとしては、亶理町で活動しているボランティア団体を通して、亶理町のいちごっこという地域のボランティアの代表者とお会いしてツアー当日の予定を組み立て、実際に下見を行い、参加者の募集と諸連絡をして、当日ツアーを行うというものでした。帰りのバスの中で、参加者の方が何かを感じ取れたとつぶやくのを聞いた時、やはり自分としては嬉しかったです。物事を企画するのが好きな人は是非ともここで手腕を発揮して欲しいと思います。

もちろんツアーの企画以外にも、支援室のスタッフは、ポスターの作成やジャーナルの編集など、様々な形で活動を行っています。ぜひ一度、皆さんにもボランティア支援室の新入生歓迎スタートアップフェアに足を運んでいただき、ご自分で話を聞いていただきたいです。ご来場をお待ちしています。

広報活動

支援室では、東北大学の内外に向けて広くボランティア活動に関する広報活動を行っています。これらの業務も、すべて学生アシスタントが行っています。

01 インターネット媒体での情報発信

支援室では、公式ウェブサイトや Facebook ページを設置し様々なイベントの告知を行っているほか、各種ボランティア情報を配信するメーリングリストなど、様々な媒体を通じて情報発信を行っています。

02 広報紙「ボランティアセミナージャーナル」の発行

年に3回、支援室の活動を伝える「ボランティアセミナージャーナル」を発行しています。ジャーナルは入学式や大学祭などのイベントで配布される他、学生支援課や支援室の公式サイトでも閲覧することができます。



03 「支援室掲示板」の設置

ボランティア団体の広報活動を支援するため、学内外のボランティア団体が自由に利用できる掲示板を、川内北キャンパス厚生会館内多目的室に設置しています。支援室が主催・共催するイベント情報についても、ポスター掲示などでお知らせしています。



04 その他広報イベント

2012年7月の東北大学オープンキャンパスや11月の東北大学祭でブースを出展し、ボランティア団体や支援室の活動を紹介しています。また、2012年11月には被災地とボランティアの現状を伝える写真展を川内北キャンパスで行いました。



学生アシスタント募集のお知らせ

支援室では、学生アシスタントとして活動に参加してくれる方を募集しています。

活動中のアシスタントは11名。学部2年生から大学院生まで、幅広い所属の学生がいます。

- ・ボランティア活動や震災復興に関心のある方
- ・イベント開催に関心のある方 etc.

アシスタントの仕事に興味のある方は、ぜひ vol.tohoku.univ@gmail.com までお気軽にお問い合わせください。

ボランティア支援室の春のイベント

01 震災ボランティア・スタートアップフェア

ジャーナルを読んで震災復興ボランティアに興味を持った皆さん、ボランティア団体のスタッフや、支援室の学生アシスタントの話を聞きに来てみませんか？

【開催日時】
2013年 4月 / 10|水| 12|金| 16|火|
18|木| 24|水| 26|金|

16:30-19:00 @ 川内北キャンパス講義棟
申し込み不要、途中参加・退出可

02 ゴールデンウィーク・ボランティアツアー

ゴールデンウィークに日帰りのボランティアツアーを企画しています。ぜひご参加ください！

教員からのメッセージ

ボランティア活動へのいざない

東北大学大学院経済学研究科 准教授 西出 優子

(にしで ゆうこ 大阪大学大学院修了。2007年より現職(非営利組織論担当)。)



新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる学生生活に心がわくわくしていることでしょう。新入生を迎えるたびに私の心に蘇るのが、留学先の大学で恩師にいわれた次の言葉です。「これから学生生活を送る、今いるこの地で、ここで暮らす市民として、あなたは何を行うのか、どのような役割が果たせるのか、自問してみなさい。」この問いかけを通して、学生時代に地域でのボランティア活動や非営利組織(NPO)でのインターンシップに参加したことが、今の自分のライフスタイルや価値観を形成する基礎となりました。

全国そして世界各地から本大学に入学した皆さんも、東北大学が立地するこの仙台、宮城、東北という地域の学生であるとともに、この地域の市民です。大学生として学問に真摯に取り組みながら、学生生活を送るこの地域の市民であることを自覚して、地域のために自分ができることを考え、行動し、地域の未来を担う、市民性・人間性が豊かなリーダーに成長して行ってほしいと願っています。ボランティア活動は、地域に貢献し、地域から学びつつ、こうした素養を育む機会の一つともいえます。

今春、東日本大震災からまる2年が経ちました。震災直後から現在に至るまで、多

数の学生の皆さんが、多様な形で震災救援・復旧・復興におけるボランティア活動を行ってきました。震災直後から連日瓦礫撤去や泥だし・片付け等を行った学生、災害ボランティアセンターの運営に携わった学生、避難所で刻々と変わる被災者のニーズや現状を把握する調査を行った学生、震災復興に向けて自ら仲間とともに学生団体を立ちあげて、組織的に復旧・復興活動を展開してきた学生等、ボランティア活動の内容は多岐にわたります。

ボランティア活動とは、「自由意志で」というラテン語を語源としており、自発的・主体的な活動です。身の回りで困っていることを他人事ではなく自分事として捉え、その課題を解決するために、自分にできることをやってみるのはどうでしょうか。実際にボランティア活動に参加した学生からは、自分が誰かの役に立てることが実感できた、人の温かさや人と人とのつながりの大切さが身にしみた、素晴らしい人や仲間と出会えた、地域の問題により関心を持つようになった、人として成長することができた、といった意見がでました。

ボランティア活動に関心はあるけれども、一歩ふみだす勇気がもてない、とい

うあなた。まずは、スタートアップフェアに参加しませんか。学内外の多様な団体が、何を目標として、どのような活動をしているか、どのようなボランティア活動を募集しているか、等を紹介します。また、基礎ゼミ「震災復興とボランティア活動」では、ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返って学びに転換し、自分たちでボランティア活動の企画立案も行う予定です。

このように、皆さんの周りには、多様なボランティア活動の機会やニーズがあります。地域が求めていること、地域の未来に必要なこと、そのために自分にできることを考えながら、一歩ふみだす勇気を持ってみませんか。皆さんが大学の授業等を通して学問に取り組むことと、ボランティア活動等を通して地域参加することは、知性と市民性・人間力を形成するうえで相乗効果を生み出すでしょう。と同時に、皆さんが現在・未来のリーダーとして活躍する地域やグローバルな社会にとっても無限の力となることでしょう。

Volunteer Seminar Journal vol.4 2013 Spring

2013年4月1日発行

発行者

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室
教育・学生支援部学生支援課内
〒980-8576 仙台市青葉区川内 41
電話 022 (795) 7818

編集スタッフ：理学部 地球惑星物質科学科 渡辺 慶太郎
工学部 機械知能航空工学科 安永 昌平

©2013 Tohoku University Printed in Japan